

令和6年度 第3回我孫子市商業観光まちづくり委員会（分科会4）
会議概要

1. 会議名称	令和6年度 第3回我孫子市商業観光まちづくり委員会 （分科会4）
2. 開催日時	令和6年8月19日（月）10:00～12:00
3. 開催場所	我孫子市役所 分館 「中会議室」
4. 出席者	<委員> 依田委員長、中澤委員、掘井委員、森住委員 <欠席者> 熊本委員 <事務局> 商業観光課 秋田課長 迫田課長補佐、大阿久係長、 輪島
5. 報告	第1号 経過報告
6. 議題	第1号 商業観光まちづくり事業の検討について
7. 配布資料	資料1 経過報告 資料2 商業観光まちづくりデータブック（令和5年度版） 資料3 我孫子市白樺芸術祭（仮） 「過去と未来」企画案（委員提案）
8. 公開・非公開	公開
9. 傍聴人	無し

会議の内容

会議の公開と傍聴について

我孫子市審議会等の会議の公開に関する規則と我孫子市商業観光まちづくり委員会傍聴要領（案）を事務局より説明した。我孫子市商業観光まちづくり委員会傍聴要領（案）については、異議なく原案通り可決した。

報告第1号 経過報告

資料1に基づき、事務局より経過を報告した。

<質問と回答>

(委員) 今年は関東近郊の花火大会のうち約15%が予算不足により中止されたという報道があったが、我孫子市では予算不足による規模縮小等の問題はないか？

(事務局) 企業協賛金は昨年が約750万円だったところ、今年は850万程をお寄せいただけた。また、初めての試みであるガバメントクラウドファンディングは目標額の100万円を達成できた。来場者数は昨年から1万人増え、19万人となったが、このような支援をいただいたおかげで、今年は昨年と同程度の規模で開催できた。来年は、物価高や警備強化などにより経費が膨らむ可能性が高いとみているが、まずは同程度での開催を目指して予算編成に取り組みたい。

(委員) 地道に募金活動を行うことも素晴らしいが、昨今の情勢を鑑みて、有料席の値上げと高付加価値化も必要ではないか。高付価値の席を作り、2～3年試行してみてはどうか。

(事務局) 高付加価値化ということでは、メッセージ花火を1発5万円で販売している。また、今年は新たにペア席等の有料席を増やした。来年は若松地区の沼側に遊歩道ができるが、観覧客が集中すると沼に人が落下しかねないため警備の強化が必要であることから、財源確保も兼ねて有料エリアとすることも検討している。

(委員) DMOに関する勉強会には、商工会だけでなくより多くの方に参加してもらうことはできるか。

(事務局) 商工会と相談が必要だが、できればそうしたいと思っている。集客をしっかりとっていききたい。

議題第1号 商業観光まちづくり事業の検討について

市制55周年に向けた商業観光まちづくり事業の検討を行った。

<事務局の説明>

市では市制55周年記念事業を官民間わず公募する予定である。採択された事業は市制55周年記念事業という名前の使用が認められ、広報あびこや市ホームページを活用したPRが行われる。実施要領は秘書広報課で検討中。

<事務局からの報告事項>

手賀沼のたもとの壁画が描かれた時のスキーム

- ・市内の芸術系の市民団体の方が、手賀大橋を管理する千葉県の許可を得て、自費で書いてくださったもの。市では補助金等は交付していない。

手賀沼公園にあるミニ鉄道のトンネル壁画について

- ・前回の委員会で、事務局より、壁画の経年劣化が激しいことについて報告した。
- ・後日、委員がお知り合いのアーティストの方と一緒に現地を見てくださり、無償で塗装してくださるという、大変ありがたいお申し出をいただいた。ラフ案もいただいた。
- ・今週木曜日に市長・副市長に報告し、指示を仰ぐ予定。

千葉県の新たな補助金制度について

- ・先週木曜日に千葉県から新たな補助金制度が示されたので紹介する。
- ・内容は、ちば文化資産の活用を条件に民間企業・団体が行う文化芸術活動に補助率2分の1、上限100万円の補助金が出るというもの。
- ・我孫子市のちば文化資産には、手賀沼周辺の公園群や、布佐地区の江戸文化遺産などがあり、使いやすい補助金となっている。

市制55周年記念事業の当課における検討状況

- ・前回の会議でたくさん魅力的な提案をいただいた。全部を一度にやることはできないため、商業観光課として、観光まちづくりとは何かという見地にたって整理し、2つの事業を候補とした。
- ・1つは、ミニ鉄道のトンネル壁画。広域から集客できる可能性があり、かつ後にも残るので、まさしく観光まちづくりの事業であると考えている。また、無料で取り組んでいただけるというのも大きい。景観条例への適合や公園の施設という観点からも問題ないことも確認できた。
- ・2つ目は、県補助金を使って、民間企業・団体に文化芸術活動をしていただくというもの。スポーツや食に関するイベントなども文化芸術活動に入るため、手賀沼公園や旧井上家住宅で実施する公開イベント等はほとんどが対象になりえるのではないかと考えている。補助金制度の積極的な周知によって主催者を掘り起こせたらいいと考えている。

<質問・意見>

(委員) ミニ鉄道のトンネルについては、PR動画を作って、学生を集めるなど、複合的な取り組みとして進めたい。市外に発信して、若い人たちへPRする構想をもっている。ただ壁画を描いて終わりにはしたくない。

(事務局) PRはしたい。将来的な展開ということでは、施設の所管課と相談は

必要だが、他にも絵を描ける場所がある。

(委員) コンセプトに一貫性を持たせるために、中心となって進める団体や人物が必要。

(委員) プロジェクトを進める団体を都度公募すると、一貫性が保てない。違う枠組みを準備していただきたい。

(委員) 10年単位で一貫性をもって継続することで定着する。無料の提案だからやってもらうなどすると、統一感が無くなる。例として、手賀沼親水広場には昔からある「天泉」という彫刻と、ジャイアントモアの像があるが、デザインを生業とする人からすると、統一感が無いと思われるだろう。

(委員) 主体が市だと公平性の確保や予算でしがらみが多く、うまくことが運ばないことが多いため、外郭団体が必要。他市だと、観光協会や大学などが間に入って意思決定をしている。

(委員) 都市計画法とは別軸で、デザインという領域からまちづくりを行う取り組みを長い時間をかけて行っていけば、我孫子市の魅力がもっと発信できる。今それに取り組む外郭団体は無いが、今後そういった団体ができると良い。

(委員) アートとデザインは違う。アートは、自分が作りたいものを作り世に出すもの。デザインは、必要なものを描いていくもの。産官学で連携してデザインしていきたい。50年後に向けたビジョンを描き、それに向けて積み重ねたい。人が変わっても同じ目的に向かって行動できるメンバー構成が必要。

(委員) お金になる方向にコンセプトを寄せることが大切。

(委員) やりたい人がやって、それに賛同する人たちが付いてくる構図を描きたい。

(委員) 団体を設ける場合、この委員会がそれになるか。

(事務局) 別の組織体が望ましいと考える。

【我孫子市白樺芸術祭（仮称）について、提案委員より説明】

(委員) 「物語の生まれる街」というが、物語は十人十色である。その中で自分たちが思う「物語の生まれる街」は、この企画だと考える。

(委員) 白樺派の文人たちは、我孫子の魅力を感じながら作家活動に勤しみ、稼いでいた。白樺派を通して、そういう文化を市が作っていくことが大事。

(委員) まちづくりは2種類しかなく、大きな企業がまちをデザインするのと、その逆で住んでいる人たちが頑張ってまちづくりをするボトムアップ型。前者は千葉県でも数%しか事例が無く、我孫子市は後者に当てはまると思う。

(委員) ビジョンを描くのを外注するのは良くない。住んでいるからこそ描ける

ものがある。外注して素敵なものができるも、そこに想いは無い。

(事務局) ハワイ州観光局では、観光振興計画(DMAT)の策定にあたり、観光客だけでなく住民の満足度も高めるため、島ごとにグラフィックファシリテーション等の技法で住民の意見を集約したそうである。我孫子でも地区を分けて同様の取組みができれば理想とは思っている。

(委員) 白樺芸術祭は商業観光まちづくり大綱のどこに位置づけられるのか。例えば、白樺派を軸としたシティプロモーションのビジョンを作ってはどうか。現時点だと、ビジョンが無い。大綱や事業集に載せられると良い。

(委員) 事業集の冒頭に各種フェスティバルという記述があるため、白樺芸術祭もその一つとし、人流と経済効果を生み出すものとするれば、位置付けられる。街なかに定期的に作品が生み出され、そこに若者が集うというイメージがしやすい。

(事務局) 着地型観光を推進するという大綱の記述に合致している。白樺派は手賀沼に惹かれて移住したので手賀沼のほうが根源的であるともいえるところ、白樺派ばかりを市が強く打ち出すと決めることは難しい。そこで、白樺派も含む多様な観光資産を活かす着地型観光を推進することとしている。

(委員) トンネル壁画と白樺芸術祭は同一のイベントとするか。壁画から白樺芸術祭をはじめとしたまちづくりに波及していく可能性もある。

(事務局) 企画次第と思料。

(委員) ミニ鉄道の壁画は今後につながる取り組みにしたい旨を、市長や他の方にご理解いただきたい。無料だからお願いして終わり、とならないようにしてほしい。

(委員) 壁画や芸術祭は、白樺派で統一性を持たせた方が良いと思われるための、最初のきっかけとすれば良いと思う。

(委員) 最初から大きいことを行うのは難しい。

(事務局) これまでの話にあったビジョン、デザイン、コンセプトにあった形で恒常的に実施するイベントを企画するとなると、庁内の様々な部署との調整、イベントの舵取り役や外郭団体の構築などを検討する必要がある、すぐには難しい。まずは、今後の展開の端緒として、市制55周年記念事業として行うことを考えたい。来年度の予算要求に向けて今後企画案を具体化し、第4分科会3回目の会議で話し合えるよう調整する。締め切りを考えると、一貫性は意識しつつも、まずは市制55周年に向けた単発のイベントとして企画したほうが現実的である。

(委員) 事業の実施主体は市で、民間はそこに資金を出資するような構図が良い。また、国や県の補助金の申請は誰がするのか、明確にしてほしい。

(委員) ちば文化資産の補助金など、補助金は活用すべき。補助金を使う習慣ができて、イベントが発展すれば、まちづくり委員として役に立てたと思える。

(事務局) 市町村が受けられる補助と、民間が受けられる補助があるので、そこも踏まえて枠組みを検討する必要がある。今後の検討。